

D 氏邸訪問記(2017.5.3)

1. 始めに

D 氏邸訪問は昨年(2016)の 11 月の訪問以来で、その様子は [M 谷氏邸・D 氏邸訪問記\(2016.11.19\)](#) で報告しています。アンプが新しくなっているようで、その試聴を兼ねて CD を持参しました。

2. D 氏邸システムの試聴の経過

D 氏邸のシステムは前回訪問時と大きくは変わってはいませんが、アンプが新しくなっていました。メインスピーカーの Jensen Imperial とガラード 301 と新しいアンプの写真を掲載しておきます。



新しいアンプは Altec 1570B で、写真では部屋の照明の関係で黒く映っていますが、本来はアルテックグリーンの名機です。この他、Nottingham Analogue Studio ACE SPACE も型番が変わっていました。

ひとしきり、D 氏邸の CD とアナログを聴かせていただきましたが、RCA から Altec にアンプが替わったことで、音の抜けがよくなり、低音も弾み、音が楽に出てくる印象です。

持参した、[ディスコグラフィー【2017No.55】](#) で使用したハービー・ハンコックの 3 枚の CD を順次かけていきますと、ピアノの音の違いが鮮明に捉えられ、特に C の最新録音のものはピアノが FAZIOLI であることがはっきり分かります。

A : SICP-4261・4262 1978 年録音

B : UCCU-5568 1996年録音

C : LC06868 2010年録音

M氏が持参され、[ディスコグラフィー【2017No.54】](#)でも使用したケルンコンサートのCD (UCCU-99004) は、[上新電機オーディオ試聴会 \(2017.3.26\)](#)で聴いたときは、少しばかり電子ピアノのような音がしていましたが、ここではピアノがベーゼンドルファーであることがはっきりと分かります。

この後、ノッチングムエアースペースデッキでクラシックを聴かせていただきましたが、毎度のことで、Jensen Imperial はクラシックを聴くと、ゆったりとした表現力があってしっくりきます。

最後のM氏が持参された、アモルメットやfoQシートで特別なチューニングが施された電源ケーブルをCDプレーヤーの電源ケーブルと交換しますと、透明感のある澄んだ音になりました。元のアナログライクな暖かい音も良かったのですが、M氏チューニング電源ケーブルは、これもそれなりの魅力があります。

試聴時間が短く、中村製作所のアモルメット組み込み電源ボックス [NXP-001](#) も持参していましたが、またの機会に聴いていただくことにしました。

以上